委　員　長　報　告

経済建設委員会は、平成23年11月7日（月）、8日（火）の2日間　愛媛県西条市において、「西条農業改革都市プロジェクトについて」、香川県高松市において、「地域資源を活用した新たな取り組み『むれ源平石あかりロード』について」、視察研修を行いました。

以下その概要について報告します。

記

西条市

市制施行	平成16年11月1日
人　　口	114,3841 人
世 帯 数	48,465 世帯
（平成23年10月末現在）	
面　　積	509.07 ㎢

愛媛県内では、第3位の面積を有しており、南には石鎚山、北には瀬戸内海と、海と平野と山が揃ったところである。

県内一の水田面積は、4,058 haあり県内の 23.8%を占めている。また、全国一の生産量を誇る裸麦やあたご柿、春の七草、県下一の収穫量を誇る水稲、メロン、にんじん、ほうれん草、ねぎ、いちご、キャベツ、きゅうり、梅など多くの農作物を供給する生産都市となっている。

瀬戸内海の海苔や魚介類など、水産業も盛んに行われている。

臨海部の埋立地には、30万トン級のタンカーを建造する今治造船やルネサスエレクトロニクスの半導体工場、アサヒビール四国工場、日新製鋼、クラレ西条が立地するなど市内には、約2,790社の企業が立地している。

全国的にもまれな被圧地下水の自噴地帯が広範囲にわたって形成されており、一帯では15～20メートルの鉄パイプを打ち込むだけで、良質かつ豊富な地下水が自然に湧き出してくる。その自噴水や自噴井は「うちぬき」と呼ばれ、飲料水としての利用はもちろん、数々の利水産業の興隆を促している。

【西条農業革新都市プロジェクトについて】

～株式会社サンライズファーム西条の設立に至る取り組みと現状～

（1）県下有数の農産地としての西条市

農業産出額（平成18年）　150億円〈愛媛県第2位〉

生産農業所得（平成18年）　46億円〈愛媛県第4位〉

経営耕地面積（平成 22 年）　4,953 ha〈四国第１位〉
総農家数（平成 22 年）　3,348 経営体〈愛媛県第３位〉
専業農家数（平成 22 年）　1,168 経営体〈愛媛県第４位〉

（２）全国に先駆けて取り組んだ総合６次産業化の推進

○これまでの取り組み事例

①食の創造館の整備

②水素エネルギーを利用した食料生産技術の開発

③海外への販路開拓

④名水ブランド生産組合

（３）「未来都市モデルプロジェクト」実証地域に選定される。

（４）株式会社サンライズファーム西条の設立

○経営理念

科学的知見に基づく確かな技術力と、地域が有する伝統の知恵との融合により、「環境親和性・経済性の両面において持続可能な革新的農業」を実現し、農業・農村の未来に貢献する。

（５）西条農業革新都市プロジェクトの位置付け

○日本経団連「未来都市モデルプロジェクト」に加え、西条市としてもこれまで積み上げてきた総合６次産業化に向けた取り組みの成果を活かし、互いに提案し合うことで、地域と企業連携した「西条農業革新都市プロジェクト」を築き上げる。

○取り組みの成果を高めるために、国が新たに創設した総合特別区域制度を活用する。

（６）西条農業革新都市プロジェクトの事業

①農商工連携による販路拡大・付加価値増強・品質向上

②食産業関連事業の創設・誘致

③先進技術を用いた省力化の推進

④企業と土地改良区の連携による農業水利施設を活用した小水力発電の導入

高松市

市制施行　明治 23 年２月 15 日
人　　口　420,278　人
世 帯 数　176,219 世帯
（平成 23 年 11 月１日現在）
面　　積　375.12　㎢

瀬戸内海に面し、人々の暮らしや経済・文化など様々なことにおいて、瀬戸内海との深い関わりの中で、県都として、また、四国の中枢管理都市

として発展を続けてきた、海に開かれた都市である。気候は、年間を通して寒暖の差が小さく、降水量の少ないのが特色です。

恵まれた風土と地理的優位性を生かし、四国の中枢管理都市として発展してきたが、特に昭和 63 年の瀬戸大橋開通や平成元年の新高松空港開港、平成４年四国横断自動車道の高松への延伸などにより高松市を取り巻く環境が大きく変化する中、平成 11 年４月、中核市に移行した。

今後は、「文化の風かおり　光かがやく　瀬戸の都・高松」を目指して、それぞれの地域の特徴をいかした、都市的利便性と自然環境が享受できる都市の実現に向け、高松市にふさわしい、コンパクトで持続可能なまちづくりを進めている。

【地域資源を活用した新たな取り組み『むれ源平石あかりロード』について】

○「むれ源平石あかりロード」の取り組み経緯

旧木田郡牟礼町は、平成 18 年１月 10 日に高松市と合併し、現在は高松市牟礼町となり、高松市東部に位置している。

瀬戸内の温暖な気候に恵まれた町で、古くから高価な「庵治石」の産地として知られ、今でも色濃くその石文化を残している。また、源平屋島合戦の舞台としても有名で、源義経、那須与一などにまつわる史跡が数多く残されている。

牟礼町にゆかりのある「源義経」が平成 17 年の大河ドラマにきまり、当時の町長が、ＮＨＫ「義経」をきっかけに源平合戦の史跡や牟礼町の風土を活かした「元気なまちづくり！」と、有志数名に声掛けをし、平成 15 年９月に“まちづくり協議会”発足に向けた準備委員会を立ち上げる。

平成 16 年４月にまちづくり協議会が発足し、「原風景」を基本テーマに地域を見つめ直し、その「良さ」を再認識する。「源平史跡」と「石材産業」を中心にあらゆる角度からまちづくりを展開するため、６つの専門委員会を設置する。

１．道並み街並み景観保存委員会
２．源平史跡保存委員会
３．観光案内検討委員会
４．石の民俗資料館活性化委員会
５．イサム・ノグチ委員会
６．駐車場委員会

○まちづくり協議会の活動

・「源平史跡」の修景事業
　●史跡の清掃活動
　●駒立て岩周辺の修景工事

・「源平史跡」のＰＲ事業
●むれ源平まつり
●源平のぼり設置
●源平ボランティアガイド（高松市観光課と協働事業）
・「石材産業」のＰＲ事業
●石の街並みづくりの検討（道並み景観保存委員会）
●庵治石製のモニュメント設置
・牟礼中学校の総合学習
●源平史跡学習
●イサム・ノグチ学習

〇石あかりロードの効果

１、地場産業・庵治石の認知度アップ
２、石材業者間の交流、刺激、挑戦
３、行政との関係・協力体制の充実
４、各種マスコミからの取材依頼
５、地域の絆の深まり・郷土愛の浸透

〇今後の課題と取組

地域再生を目的に石材産業を中心とした循環の仕組みを構築し、持続可能な地域振興のまちづくりを目指すものである。

・地域貢献―地域貢献人材育成システムの整備
・賑わいづくり―地域住民参加による地域力再生にぎわい事業
・地域振興―『産地』の地域振興と地域ブランドの確立
・産業振興―石材産業を活用したモノづくり事業の啓蒙と情報発信